

日本プラスチック工業連盟 4ヵ年計画「2025～2028年度」

【最重点実施項目】

- ・(環境)プラスチック資源循環型社会形成に向けた取組みの推進
- ・(総務)正しい情報発信によるプラスチックのイメージアップへの貢献
- ・(規格)日本からの主体的・積極的な規格開発

分野		課題・目標	具体的取組み
総務・環境部会	環境・安全	・環境・安全問題への積極的参画	① 資源循環型社会形成に向けた取組みの推進 資源循環委員会の体制見直しと強化 ② 海洋プラスチック汚染解決へ向けた活動推進 活動内容の見直しと強化 ③ 行政・アカデミア・NPO/NGO・国内外業界団体との連携維持・強化 ④ 各種セミナーの継続開催
		・業界代表としての意見具申	① 政府主導の委員会等への参画 ② 業界に影響する法制化等に対するタイムリーな意見具申
	広報・国際	・プラスチックのイメージアップ	① 消費者行動変容に繋がる啓発活動 イメージ調査の解析と新規取組み立案・実行 ② 教育関係者への的確な情報提供と支援継続 ③ 次回プラスチックイメージ調査実施(2028年)
		・業界動向の解析	① プラスチックの生産・販売・輸出入統計解析による動向把握と発信 ② 業界情報の収集と発信
規格部会		・国際標準化活動のアクティビティ維持	① ISO幹事国業務と国内委員会事務局業務の着実な遂行 ② ISO/TC・SC国際議長並びにWGコンビーナの推挙 ③ ISO国際会議の日本開催 TC138: 2027年(予定)、TC61: 2028年(予定) ④ IEC各TCの国内委員会への支援
		・標準化業務の円滑な遂行	① ISO新規テーマ発掘提案 ② 会員・委員の標準化への理解深化 ③ JIS(ISO/TC61&138関連)の定期見直しと制定・改正等の立案 ④ 電気用品部品・材料に関するJISの制定・改正等への対応
事務局		・財政基盤の維持・強化 ・4ヵ年計画のローリング	①業務見直しによる合理化と新規会員勧誘 ①期末にローリング実施

I. ビジョン:当連盟は、

- ・プラスチック工業に関わる団体及び企業を会員とし、それら会員の利益のために、プラスチック業界、なかでもプラスチック加工業界に求められている重要課題の解決のために活動する。
- ・プラスチック樹脂製造業、プラスチック加工業及び関連団体等の組織間の協力関係の絆を強化し、プラスチック工業の健全な発展に寄与する。
- ・プラスチックに関する正確な情報を社会に発信するとともに、社会の要請を的確に捉えてプラスチック業界に反映することにより、社会に貢献する。
- ・海外、特にアジアの業界との協調により、プラスチック工業の発展と社会貢献に寄与する。

II. 基本的な業務分野

1. 総務・環境部会

- ① 環境: 環境・安全に関し、法規制動向、社会情勢を捉え、政府機関及び関係団体との協力を図りながら、プラスチック産業界の最適な対応を支援する。
- ② 広報: プラスチック産業界の正確な情報及び社会の要請に対応したプラスチックに関する情報を的確に提供する。
- ③ 統計: 継続的にプラスチック業界の生産、販売及び貿易について、動向を整理・解析し、情報提供する。

2. 規格部会
プラスチックに関する国際標準化活動において、日本の主体性を発揮するとともに、日本産業規格の的確な整備、運営に寄与する。

3. 事務局
財政基盤を強化し、適正運営に努める。

III. 外部環境分析

1. 社会・経済情勢

- ・SDGsの浸透、Planetary Boundaries(地球の限界)を超えない活動の維持とWell-Being(幸福)実現との同時達成を目指す動きが本格化
- ・23年5月にコロナ感染症が5類へ移行、各種経済活動が本格再開
- ・再生可能エネルギー、EV、AIなど、新たな技術が社会へ急速に浸透
- ・ウクライナ紛争&ガザ戦闘継続、米中対立など、地政学リスクによる経済安全保障の必要性高まり
- ・中国経済成長の鈍化と石化新增設継続
- ・エネルギー & 原材料高騰、インフレ、米国追加関税 & 相互関税政策

2. プラスチック業界関連

- ・2050年カーボンニュートラルへ向けた様々な検討が本格化
- ・資源循環型社会形成へ向けた各種政策スタート
- ・プラスチック製品需要は微減、プラスチック原材料需要は減少傾向継続
- ・プラスチックリサイクル率は2割強、エネルギーリカバリー率は6割強で、共に横ばい
- ・ブランドオーナー等を中心とした様々なリサイクル取組みや新規団体・コンソーシアム立上げが活発化
- ・国連やEUをはじめ、各国でプラスチックに関する規制や政策検討が進展
- ・リサイクルに関するISO規格が増加中
- ・日本発ISO規格化への積極的な提案が定着化

V. プラスチックのイメージ調査結果

・2020年に大幅に悪化したプラスチックに対するイメージはやや回復傾向

・「身近なもの、役に立っている」の基本的な有用性の認識は高いレベルで維持

・前回大幅に悪化した「環境へのやさしさ、安全性、資源の有効利用」での評価や全体的な好感度はある程度回復

・他材料と比べて、好感度がやや低い状況は変わらず

・特徴、利用法の認知は概ね向上

・プラスチックになる原油の割合を、実際より大きく考えている消費者が大多数

・「分別収集してリサイクルする必要性」は95%を超える高いレベルで認知

・エネルギーリカバリーを肯定的に捉える意見は6割強を維持

・ポイ捨てが海洋プラスチック問題に繋がるとの認識は定着しつつある

・リサイクルされたプラスチックの購入で、積極的な消費者層とそうでは無い層とが拮抗する状況が継続

・バイオプラスチックを用いた製品で、価格上昇を許容する傾向が認められる

VI. 内部環境分析

・規格に関する専門家の高齢化

・適正な繰越金の維持継続

4ヵ年計画「2025年度～2028年度」 取り進めイメージ（1）総務・環境部会

分野		具体的な取り組み	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
総務・環境部会	環境・安全	◆ 環境・安全問題への積極的参画				
		① 資源循環型社会形成に向けた取り組みの推進 －資源循環委員会の体制見直しと強化 再生材利用推進-WG PET-WG PS-WG バイオプラスチック利用推進-WG	準備 → ▼新体制スタート			
			▼新体制スタート			
		② 海洋プラスチック汚染解決へ向けた活動推進 －活動内容の見直しと強化	新方針スタート →	▼進捗確認 →	▼進捗確認 →	▼進捗確認 →
		③ 行政・アカデミア・NPO/NGO・国内外業界団体との連携 維持・強化 －3省(経産・環境・厚労)他、報道発表などの会員への配信 －省庁調査依頼への対応 －消費者団体との懇談会 －環境NPO/NGOとの連携	原則毎営業日配信 都度実施			
			適宜実施 準備 → ▼実施	準備 → ▼実施	準備 → ▼実施	準備 → ▼実施
		④ 各種セミナーの継続開催 －海洋プラスチック問題セミナー －化学物質管理等に関するセミナー －その他セミナー	準備 → ▼実施 準備 → ▼実施 適宜実施	準備 → ▼実施 準備 → ▼実施 適宜実施	準備 → ▼実施 準備 → ▼実施 適宜実施	準備 → ▼実施 準備 → ▼実施 適宜実施
		◆ 業界代表としての意見具申				
		① 政府主導の委員会等への参画	都度参画			
		② 業界に影響する法制化等に対するタイムリーな意見具申	適宜実施			
	広報・国際	◆ プラスチックのイメージアップ				
		① 消費者行動変容に繋がる啓発活動 －イメージ調査の解析と新規取組み立案・実行 －HPの継続的な改良 －業界紙記者への情報提供(月次記者会開催)	適宜実施 適宜実施 毎月実施			
		② 教育関係者への的確な情報提供と支援継続 －教科書改訂動向の調査とフォローアップ －都中理工場見学研修会の企画・実行 －全国中学校理科教育研究会での資料集配布	▼購入調査 準備 → ▼都中理研修会 準備 → ▼全中理大会	▼確認調査 準備 → ▼都中理研修会 準備 → ▼全中理大会	▼確認調査 準備 → ▼都中理研修会 準備 → ▼全中理大会	▼確認調査 準備 → ▼都中理研修会 準備 → ▼全中理大会
		③ 第7回プラスチックイメージ調査実施(2028年)				準備 → ▼調査実施 解析
		◆ 業界動向の解析				
		① プラスチックの生産・販売・輸出入統計解析による動向把握と発信 －月次報告(加工懇・会員専用HP) －総括報告(月刊プラスチックス)	毎月実施 ▼6月号 ▼1月号	▼6月号 ▼1月号	▼6月号 ▼1月号	▼6月号 ▼1月号
		② 業界情報の収集と発信 －最新公開情報の定期配信(加工懇・会員専用HP)	毎月実施			
		◆ 海外関連情報の収集と発信				
		① アジアのプラスチック業界団体との交流などによる情報収集と発信 －極東プラスチック懇談会(韓国、台湾) －CPPIA(中国)交流会	準備 → ▼韓国開催 準備 → ▼日本開催	準備 → ▼事務局会議 準備 → ▼中国開催	準備 → ▼台湾開催 準備 → ▼日本開催	準備 → ▼事務局会議 準備 → ▼中国開催
		② 米・中・欧の動向把握と発信 －米ワシントンコア社との定期情報交換会 －米中貿易統計の定点観測(半期毎) －最新海外情報の発信	▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ 都度実施	▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼	▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼	▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼

4ヵ年計画「2025年度～2028年度」取り進めイメージ（2）規格部会・事務局

分野	具体的な取り組み	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
規格部会	◆ 国際標準化活動のアクティビティ維持				
	① ISO幹事国業務と国内委員会事務局業務の着実な遂行 －国際幹事並びに国内事務局担当交代における的確な対応 －ISO標準化活動における国内委員会の的確な運営	担当見直し ▼ 適宜実施 国際会議	担当見直し ▼ 国際会議	担当見直し ▼ 国際会議	担当見直し ▼ 国際会議
	② ISO/TC・SC国際議長並びにWGコンビーナの推挙 －国際議長やコンビーナの交代時の対応及び国際幹事のフォロー	判断 ▼	判断 ▼	判断 ▼	判断 ▼
	③ ISO国際会議の日本開催(概ね10年に1度開催) －TC138: 2027年 －TC61: 2028年	開催準備	開催準備	▼日本開催	▼日本開催
	④ IEC各TCの国内委員会への支援	適宜実施			
	◆ 標準化業務の円滑な遂行				
事務局	① ISO新規テーマ発掘提案 －TC61、TC138技術委員会等にて新規テーマを確認、提案の働きかけ実施	委員会 ▼ 委員会	委員会 ▼ 委員会	委員会 ▼ 委員会	委員会 ▼ 委員会
	② 会員・委員の標準化への理解深化 －TC61、TC138技術委員会等で説明、教育を実施	準備▼フォロー 準備▼フォロー	準備▼フォロー 準備▼フォロー	準備▼フォロー 準備▼フォロー	準備▼フォロー 準備▼フォロー
	③ JIS(ISO/TC61&138関連)の定期見直しと制定・改正等の立案 －JIS定期見直しを確実に行之、TC61、TC138技術委員会等にて委員に働きかけて、着実にJIS改正を実施 －各SC委員会では、JIS制定・改正の計画を立案し、原案作成委員会を立上げ、JIS作成を実行	委員会 ▼ 委員会 区分A～Dに沿って継続実施	委員会 ▼ 委員会	委員会 ▼ 委員会	委員会 ▼ 委員会
	④ 電気用品部品・材料に関するJISの制定・改正等への対応	委員会 ▼ 委員会 委員会 委員会	委員会 ▼ 委員会 委員会 委員会	委員会 ▼ 委員会 委員会 委員会	委員会 ▼ 委員会 委員会 委員会
	◆ 財政基盤の維持・強化				
	① 業務見直しによる合理化と新規会員勧誘 －合理化検討と実行 －新規会員勧誘活動	進捗確認▼ 適宜実施 予算化▼	進捗確認▼ 予算化▼	進捗確認▼ 予算化▼	進捗確認▼ 予算化▼
	◆ 4ヵ年計画のローリング				
	① 期末にローリング実施	ローリング・予算化▼	ローリング・予算化▼	ローリング・予算化▼	次期4ヵ年計画検討